

登米市立小中学校等再編構想

～魅力ある教育環境づくり～

【改定（案）】

※中学校再編関係等抜粋

(1) 学校の適正規模・適正配置

登米市小中学校再編基本方針に基づき、学校の適正規模・適正配置（※）及び学校施設老朽化への対応等、望ましい教育環境の充実に努めます。

※：適正規模・適正配置（中学校）

適正規模は、少なくともクラス替えができる各学年2学級規模から、全校で18学級までの範囲とし、適正配置は、市全域での再編を基本とします。

中学校は、これまでスクールバスによる通学支援を行っていませんでしたが、スクールバスを活用した場合の通学時間は「概ね1時間以内」とし、一定の基準を設定して通学支援を行います。

(2) 校舎などの有効活用

現有の校舎や施設を活用することで、早期の統合が見込まれることから、必要に応じた施設改修等を行った上で、有効活用を図ります。

改修等に要する財源は、国の補助や起債など、有利な財源を活用しながら進めます。

- (1) 複式学級の解消や現有校舎の老朽化などを考慮し、早期に再編を進める必要がある地域の学校を選定します。
- (2) 新しい学校を創立するという考え方から、いずれかの校舎を利用する場合においても、「新設統合」を原則とします。



早期の改善を必要とする学級規模

- ① 複式学級のある（又は見通しのある）小学校
- ② 学年単学級の小学校
- ③ 学年単学級の中学校（小学校の再編状況等により検討）

学校施設の経過年数

- ① 校舎等の建築後経過年数等から今後の活用方針を検討
- ② 統合校舎として活用する場合は、必要に応じた施設改修を行い有効活用
- ③ 廃校となる校舎は、地域の要望等を踏まえ有効活用

（1）迫地域における再編方針の修正

- ・長沼など地理的な要因や児童数の状況等を考慮。
- ・現時点において、3校の統合は適正規模となる24学級を超えることから、段階的な統合。

【再編方針】

新田小学校、北方小学校が学年単学級となっています。また、北方小学校校舎の老朽化も進んでいることから、2校の統合が望ましいが、現状では、中学校の通学先が異なることや地理的な状況等を考慮することが必要と考えられます。このため、佐沼小学校は適正規模を確保していることから再編の対象となっていませんが、佐沼小学校を含めた段階的な統合も検討する必要があります。

（1）地域別の中学校の状況

地域（中学校）別の状況（基準：R2年）

区 分		生徒数の推移					学級規模	建築後経過年数			大規模改修
地域	学校	H30	R10	増減率	R20	増減率	単学級	～20年	～40年	41年～	
迫	佐沼	452	410	-9%	350	-23%			●		
	新田	78	69	-12%	40	-49%	H30			●	H20
東和	東和	127	89	-30%	58	-54%	R8			●	H9
中田	中田	413	343	-17%	215	-48%				●	H21
米山	米山	244	179	-27%	114	-53%				●	H14
南方	南方	234	196	-16%	129	-45%				●	H24
津山	津山	90	47	-48%	14	-84%	H30			●	H24
登米	登米	108	86	-20%	53	-51%	H30		●		
豊里	豊里	194	145	-25%	112	-42%			●		H18
石越	石越	117	88	-25%	45	-62%	R2	●			
合計		2,057	1,652	-20%	1,130	-45%	5校	1校	3校	6校	7校

（2）現状と課題

- ①現在は新田中、津山中、登米中及び石越中が学年単学級、令和8年度には東和中が学年単学級となる見込みである。半数の中学校が学年単学級となる見通しであり、部活動などの集団活動や多様な学習指導体制が困難となる見込み。
- ③半数の校舎が耐用年数の2／3を超過。
- ④アンケート結果では、小学校と併せて進める方が良いとの回答が約半数。また、地域から中学校の再編も進めてほしいとの意見。

（3）検討事項と進め方

- ①中学校は、小学校再編の進捗を見ながらその具体化を検討する予定としていたが、地域の意見や地域ごとの状況を踏まえ、中学校再編の早期の実施に向け取り組む。
- ②学級規模の適正化、校舎等の適切な改修や更新等を進めることを目的として、将来的な生徒数の推移、通学に要する時間、距離、交通の利便性等を総合的に判断し、必要となる学校数を検討。
- ③その結果、小学校の通学区域を基本とし、市内を4つの地域に区分けして学級規模の適正化を図るとともに、校舎等の改修や更新等を計画的に実施。

（4）早期に再編が必要と思われる地域と再編方針

地域（中学校）別の再編方針

地 域	課 題		再編方針
	学級規模	施設	
東部地域 （登米・東和・津山）	学年単学級の解消（3校）	経過年数（2校）	3校の統合
北部地域 （中田・石越）	学年単学級の解消（1校）	経過年数（1校）	2校の統合
西部地域 （迫）	学年単学級の解消（1校）		2校の統合
南部地域 （豊里・米山・南方）	学年単学級の解消（2校）	経過年数（2校）	3校の統合

「登下校時の安全確保」、「いじめ・不登校への対応」、「学校周辺施設の充実」、「多様な学習指導体制の確立」など保護者アンケートから寄せられた意見や多様な機能を有する学校施設の有効活用など、地域に配慮した取組を進めます。

(1) 再編に向けた準備事項

- ① 保護者、地域住民、学校関係者等の意見・要望を聴取
- ② 学校やその周辺施設(校舎設備、校庭等)の改善
- ③ 通学環境(通学路等の安全、スクールバス)の検討
- ④ 環境の変化に伴う子どもたちの戸惑いや不安を和らげるため、学校間での児童・生徒の交流活動の実施

(2) 再編後の学校運営

- ① 不安や悩みを持つ児童生徒に対する支援・相談体制の充実
- ② 指導形態の工夫によるきめ細かい学習指導の充実
- ③ 学校行事や児童会活動を通じた学校の活性化
- ④ 通学路の安全確保、スクールバスの運行等による利便性・安全確保

生徒数の推移や校舎の老朽化対応への検討を考慮し、小学校再編と同様に実施期間を10年程度とします。

※実施の際には、再編新校の位置や通学支援のあり方など市教育委員会の考え方を説明するとともに、統合後の学校運営などについては保護者や地域の方々とともに検討し、合意形成を図りながら進めます。

小中学校再編構想 中学校実施スケジュール

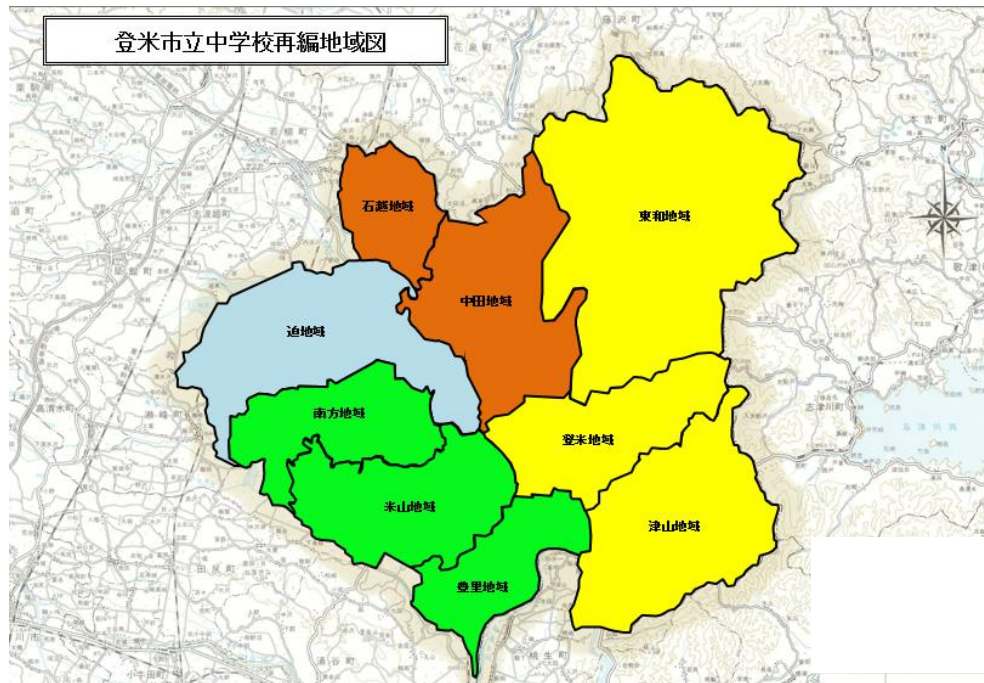
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
① (参考)再編構想改定													
② (参考)再編構想改定に伴う説明会													
③ 学校再編構想(中学校)													
④ 中学校再編の準備期間 (※保護者等との合意形成や開校・閉校準備についての検討、校舎整備など)													
東 部 地 域	登米中学校、東和中学校、津山中学校の3校統合			地域説明会									
北 部 地 域	中田中学校、石越中学校の2校統合			地域説明会									
西 部 地 域	佐沼中学校、新田中学校の2校統合			地域説明会									
南 部 地 域	豊里中学校、米山中学校、南方中学校の3校統合			地域説明会									

将来的な生徒数の推移、通学に要する時間や距離、交通の利便性などを総合的に判断し、小学校の通学区域を基本として、市内を4つの地域に分けることで学級規模の適正化を図るとともに、校舎等の改修や更新等を計画的に進めていきます。

(1) 再編新校の位置の考え方

既存校舎の活用を基本として、統合する生徒数や学校規模（教室数等）、建築経過年数、通学距離(時間)などを考慮し、再編新校の位置を教育委員会で検討します。

(2) 中学校再編地域図



再編地域（色分け）	
水色	西部地域 (迫)
黄色	東部地域 (登米・東和・津山)
橙色	北部地域 (中田・石越)
緑色	南部地域 (豊里・米山・南方)